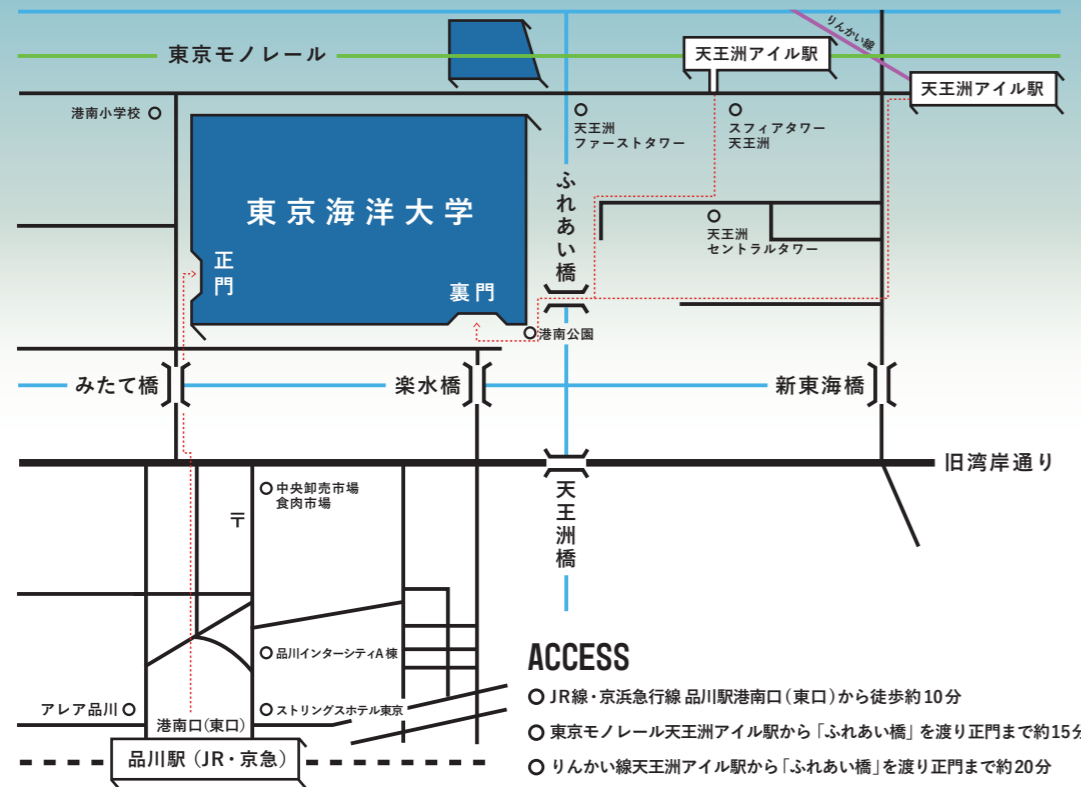


海洋政策文化学科

海・人・社会の多様な  
つながりを  
グローバルに考える

グローバル (Global)  
「グローバル」と「ローカル」の合成語



東京海洋大学 (品川キャンパス)  
〒108-8477 東京都港区港南 4-5-7  
TEL : 03-5463-0400 (代表)

海洋政策文化学科ホームページ  
<http://www.s.kaiyodai.ac.jp/seisakuHP/>



表紙イラスト：  
高鋭一 (1877). 日本製品圖説「浅草海苔」を参考に作成  
(原本所蔵：東京海洋大学附属図書館岡村文庫)

# 学 科 概 要

## 海洋政策文化学科



海洋・沿岸は、人類を含むあらゆる生物の生存基盤です。四方を海に囲まれた島嶼国・日本は、とくに海の自然の恵みに拠って生命をつなぎ、沿岸に集落を発達させて産業をおこし、ゆたかな暮らしを実現させ、独自の文化を発展させてきました。昨今、地球規模で海洋環境の悪化と生物資源の枯渇が危惧され、海洋資源の利用をめぐる国際コンフリクトが激化し、国内では生活・市場等の条件が不利な沿岸地域の存続が懸念されています。そうした状況で、地方創生と国際協調による海洋・沿岸域の持続的利用にもとづいて、海洋産業の創出と発展をはかることは、長期にわたる大きな政策的課題です。

海洋政策文化学科は、海洋・沿岸に関する社会科学や人文科学の観点から総合的に学ぶことができるわが国随一の学科であり、海洋産業・海洋政策系、海洋環境教育・海洋スポーツ系、国際・科学文化系の三つを軸とした専門的教育・研究を行っています。本学科では、まず基礎的な科学知識、および実践的な語学力を含むゆたかな教養と洞察力を身につけます。これらを土台に、海洋政策、海洋文化等にかかわる専門知識を学び、さらに実習・調査・討論、発表を通して実践力を磨きます。このようにして、合意形成や問題解決の場を創造するファシリテーション能力を備えた人材を本学科では育てます。



# カリキュラム

## 海洋政策文化学科の授業

本学科では、1・2年次で理系科目も含めた教養科目を広く習得した後、3・4年次では主に人文・社会系の側面から海洋をめぐる問題を総合的に学びます。経済学、経営学、法学、環境問題、食料問題、地域・言語文化、多文化論、メディア論、教育、コミュニケーション論、科学技術論、倫理学、マリンスポーツ、海洋健康科学などの授業があります。

		1年次	2年次	3年次	4年次
総合科目	共通導入科目	○			
	文化学系科目	○			
基礎科目	哲学・科学論系科目	○			
	社会科学系科目	○			
	健康・スポーツ系科目	○			
	外国語系科目	○			
	グローバル・キャリア関連科目	○ TOEIC入門 ○ グローバルキャリア入門 ○ キャリア形成論Ⅰ		○ TOEIC演習 ○ 海外派遣キャリア演習Ⅰ ○ キャリア形成論Ⅱ	○ 海外派遣キャリア演習Ⅱ
専門科目	コア課程科目	○ 海洋政策文化入門 ○ 日本経済論 ○ 経営学 ○ 水圏環境教育 ○ 漁業管理論	○ 海洋政策文化研究法 ○ 水産経済学 ○ 海洋法 ○ 資源利用関係論 ○ 海洋環境政策論	○ 環境と教育 ○ 海洋性レクリエーション論 ○ 国際文化思想論 ○ 多文化環境論	○ 科学技術論 ○ 生命・環境倫理学
	共通系		○ 海洋政策文化特別講義	○ 海洋政策文化インターンシップ ○ 職業指導	
	海洋政策系	○ 食料経済論 ○ 海洋政策文化基礎演習 ○ 経済学演習	○ 漁業経営論 ○ 食品マーケティング論 ○ 海事法規 ○ 水産調査	○ 沿岸域利用論 ○ 水産政策論 ○ 水産物流通論 ○ 沿岸域管理論 ○ 水産経済史 ○ 海洋政策実習 ○ 資源経済論 ○ 沿岸地域社会調査 ○ 海洋管理制度論 ○ 漁村フィールドワーク実習	
	海洋環境教育・海洋スポーツ系		○ 海と健康 ○ マリンスポーツ実習 ○ 水圏環境教育学実習 ○ 漁具漁法学 ○ 動物発生学	○ 微生物学 ○ 動物組織学 ○ 資源生物学実験 ○ 比較生理学 ○ 集団生物学	○ スポーツ生理学 ○ 水族館学 ○ 健康・スポーツ科学演習 ○ 栄養生物化学実験 ○ 水圏環境コミュニケーション学実習
	国際・科学文化系	○ 魚食文化論	○ 海洋文化史 ○ 国際関係論	○ メディア文化論 ○ 環境文学 ○ 環境思想 ○ 海洋文学 ○ 政治哲学	○ 生命・環境倫理学の諸問題 ○ 科学技術論の諸問題 ○ 国際協力論 ○ 日本社会理解
卒業研究科目			○ 海洋政策文化セミナーⅠ ○ 海洋政策文化セミナーⅡ	○ セミナー ○ 卒業論文	

## 特徴ある授業

### フレッシュマンセミナー(1年)

海鷹丸(1886トン)、神鷹丸(649トン)、青鷹丸(170トン)で東京湾を1泊2日でクルーズします。さらに、3泊4日の臨海実習でフィールドワークを体験します。



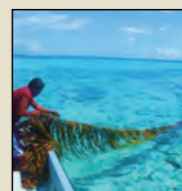
### 海洋政策文化基礎演習(1年)

教員1名と学生3~4名のグループに分かれ、それぞれのグループごとにテーマを設定し、実習や調査を行います。



### 水産調査(2年)

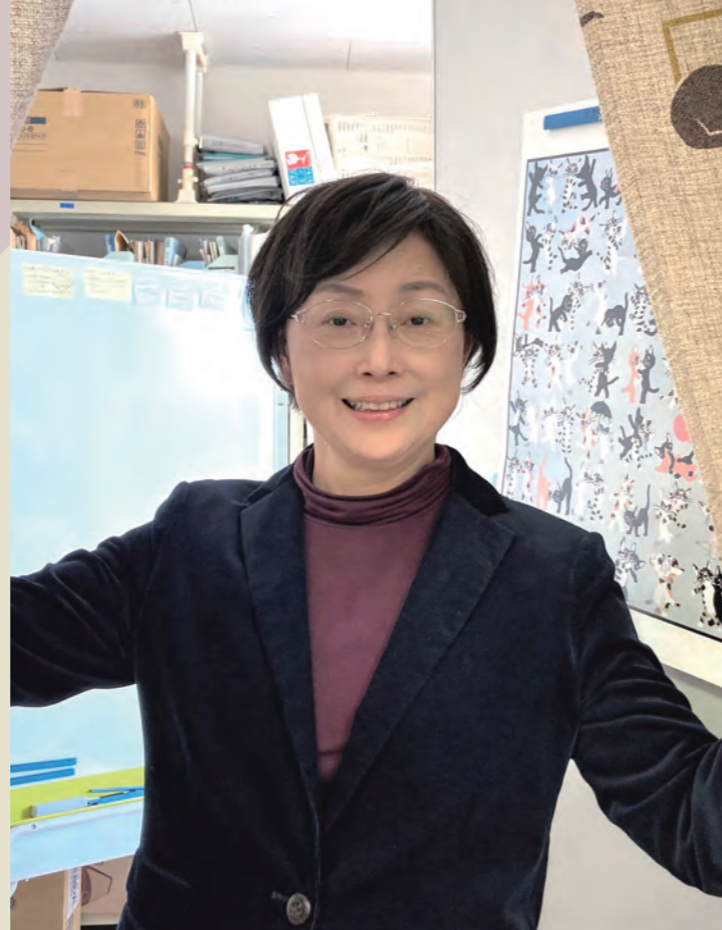
全国各地の漁村や水産都市を訪問し、地域の水産業の現状と課題を理解します。



# 教授 川辺みどり

沿岸域環境管理研究室

河川流域から海域までの水でつながる空間は、豊かな資源に恵まれています。この恵みを永く利用するための人びとの努力が、私の研究と教育のテーマである「沿岸域管理」です。かつて沿岸域では漁業や水産業を中心に地域社会が発展しましたが、グローバル経済のなかで衰退が懸念されています。さらに、海洋レクリエーションやエネルギー開発などが新たな産業として台頭し、いま沿岸域の利用をめぐる状況は大きく変化しました。これから、どうすれば人びとがゆたかに幸せに暮らしていけるのか。授業「沿岸域管理論」(3年)では、こうした事柄を具体的に、みんなで話し合いながら考えます。



MIDORI KAWABE

# 教員

水産経済・経営学研究室

准教授

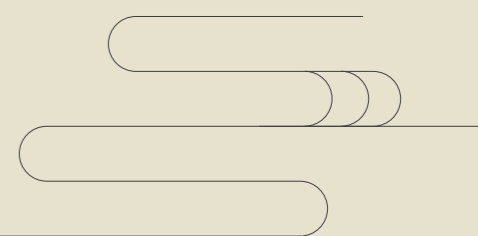
# 松井隆宏

漁業管理や水産経済・経営に関する授業を担当しています。ゼミでは経済学や統計学の知識を身につけたうえで繰り返し現場に足を運び、各地の漁業者や漁業関係者と協力し、資源を適切に管理しながら、漁業を経営的、社会的に持続可能なものとするための様々な取り組み、研究をおこなっています。近年は、ICTを活用した経営の効率化や漁業・漁村の活性化に関する取り組み、研究にも力を入れています。

TAKAHIRO MATSUI



# 紹介



MIHOKO WAKAMATSU

環境問題や海洋資源の効率的な管理に関する研究をおこなっています。授業「海洋環境政策論」「海洋管理制度論」では、こうした問題に経済学や統計的な知識を使って向き合います。研究では、漁業の成功に必要な制度やその要因を明らかにするために、現地調査によるデータや経済実験(人間の心理や行動を制御された環境下で検証する手法)を使って、定量的に分析します。アンケート調査による自然資本や生態系サービスの評価にも取り組んでいます。

# 准教授 若松美保子

環境経済学研究室



水産消費経済論研究室

准教授

# 大石太郎

私の研究室では、身近な経済活動である消費行動のデータを分析し社会に役立つ知識を発見することを目指しています。ゼミ生は、卒業研究(4年)で、アンケート調査や食味調査等を実施してデータ入手し、エコラベルやブランド水産物に対して消費者が見出す貨幣価値やその要因を解明する等の研究テーマに取り組んでいます。そうした卒業研究を行う上で基礎となる経済学(1年)や資源経済論(3年)を担当科目として教えています。

TARO OISHI



准教授  
藤本浩一

海洋スポーツ・健康科学研究室

海洋スポーツに関する競技力向上、安全、教育的またはレジャー・レクリエーション的な意義や価値、人体生理学のほか、船員や漁業者等の海で働く人の安全、健康維持・増進を研究テーマとしています。授業では、上記に関連した講義だけではなく、シーカヤックやスキndaイビング等、海洋スポーツの実習も開講しています。ゼミでは、国内外の文献を参照して最新の知見を得て、レベルのみならず社会貢献力も高い卒業論文の作成を目指しています。



KOICHI FUJIMOTO

国際文化論研究室

准教授

小山尚之

私は総合科目の授業としてフランス語、ヨーロッパ文化論を担当し、海洋政策文化学科の専門科目としては国際文化思想論、海洋文明論を受け持っています。授業ではエチエンヌ・ド・ラ・ボエシ、ジャン＝ジャック・ルソー、ジル・ドゥルーズ、ミシェル・フーコー、フェルナン・ブローデルなどを取り上げて読んでいます。これまでの卒論ではヨーロッパの歴史、神話、哲学、美術、建築にまつわるテーマを学生に書いてもらっています。

NAOYUKI KORYAMA



日本語コミュニケーション論研究室

准教授

今村圭介

皆さん日本語と聞くと、日本人だけのものと思う人も多いかと思います。しかし戦前の植民地主義政策の下で日本語は海を渡り、また近年ではグローバル化で多くの日本語の単語が他の言語に取り入れられています。海洋関係の語彙を見ても、ミクロネシアのパラオ語ではカツオ、イワシ、マグロ、大漁、生簀など日本語の借用語が使われますし、ヨーロッパの各言語でもサシミ、スリミなど日本語が使われています。私の研究室ではそのような日本語にかかわる文化接触と言語の相互影響について研究をしています。

KEISUKE IMAMURA



SHUZO KOGURE

私の授業では、2年(前学期)に、社会学的な調査における文化的属性(国籍・ジェンダー・階級等)の重要性を学び、3年(前学期)には、そのような属性を切り口としたメディア分析の方法について学んでいきます。また、私の3年(後学期)・4年のゼミでは、このようなメディア分析のみならず、社会学的な調査方法、特にフィールドワークを中心に、漁村や離島における観光と地域活性化のあり方について研究し、卒業論文を作成しています。

文化社会学研究室  
教授 小暮修三

# 教員紹介

教授 水産経済政策研究室  
婁小波



XIAOBO LOU

研究分野  
水産経済、地域経済、海洋経済

教授 海洋スポーツ・健康科学研究室  
千足耕一



KOICHI CHIASHI

研究分野  
海洋スポーツ、自然体験活動、海上労働、安全、健康、教育効果

教授 沿岸域利用論研究室  
工藤貴史



TAKAFUMI KUDO

研究分野  
資源、漁業、釣り、ダイビング

教授 流通・マーケティング論研究室  
中原尚知



NAOTOMO NAKAHARA

研究分野  
水産経済、マーケティング論

准教授 海事法・海洋法研究室  
大河内美香



MIKA OKOCHI

研究分野  
国際法、海洋法、海事法、大陸棚資源開発

教授 水圏環境教育学研究室  
佐々木剛



TSUYOSHI SASAKI

研究分野  
水産・理科教員養成プログラム、水圏環境教育、ユネスコ海洋リテラシー

教授 国際海洋政策研究室  
猪又秀夫



HIDEO INOMATA

研究分野  
漁業管理、国際制度、社会科学の方法論

准教授 水産経済史研究室  
高橋周



CHIKASHI TAKAHASHI

研究分野  
水産経済史、魚肥

准教授 国際協力論・日本事情研究室  
原田幸子



SACHIKO HARADA

研究分野  
国際協力、水産物貿易、地域振興

准教授 教育学研究室  
畠山大



DAI HATAKEYAMA

研究分野  
教育哲学、教育方法学

柿原 泰

科学史・科学技術論研究室



YASUSHI KAKIHARA

研究分野

科学技術の歴史的・社会的・倫理的研究、健康・環境問題、放射能、原子力

日臺晴子

国際文化論研究室



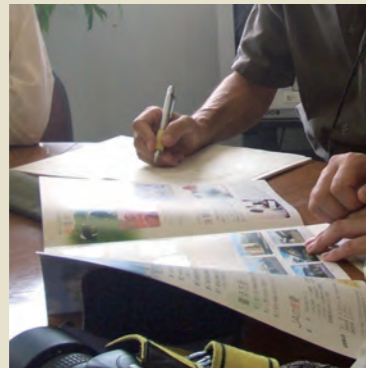
HARUKO HIDAI

研究分野

19世紀イギリス文学、海洋文学、エコクリティシズム

萩原 優騎

生命・環境倫理学研究室



YUKI HAGIWARA

研究分野

生命倫理学、環境倫理学、情報倫理学、環境社会学、科学技術社会論、精神分析、レジリエンス

大野 美砂

国際文化論研究室



MISA OHNO

研究分野

アメリカ文学、海洋文学、環境文学

# 入試

海洋政策文化学科アドミッション・ポリシー

海洋政策文化学科では、政策的アプローチ、産業的アプローチ、文化的アプローチにより、理論と実践における考察力と実践力を練磨するために、「海・人・社会」の望ましい関係の在り方について幅広く教育・研究しています。本学科は、理系・文系の垣根をこえ、海洋政策、海と人との共生に対して積極的な関心を有し、また、法律、経済、人文学、海洋スポーツ、教育など、幅広い分野に興味があり、数学・理科の基礎学力や論理的思考力を持った学生を求めています。

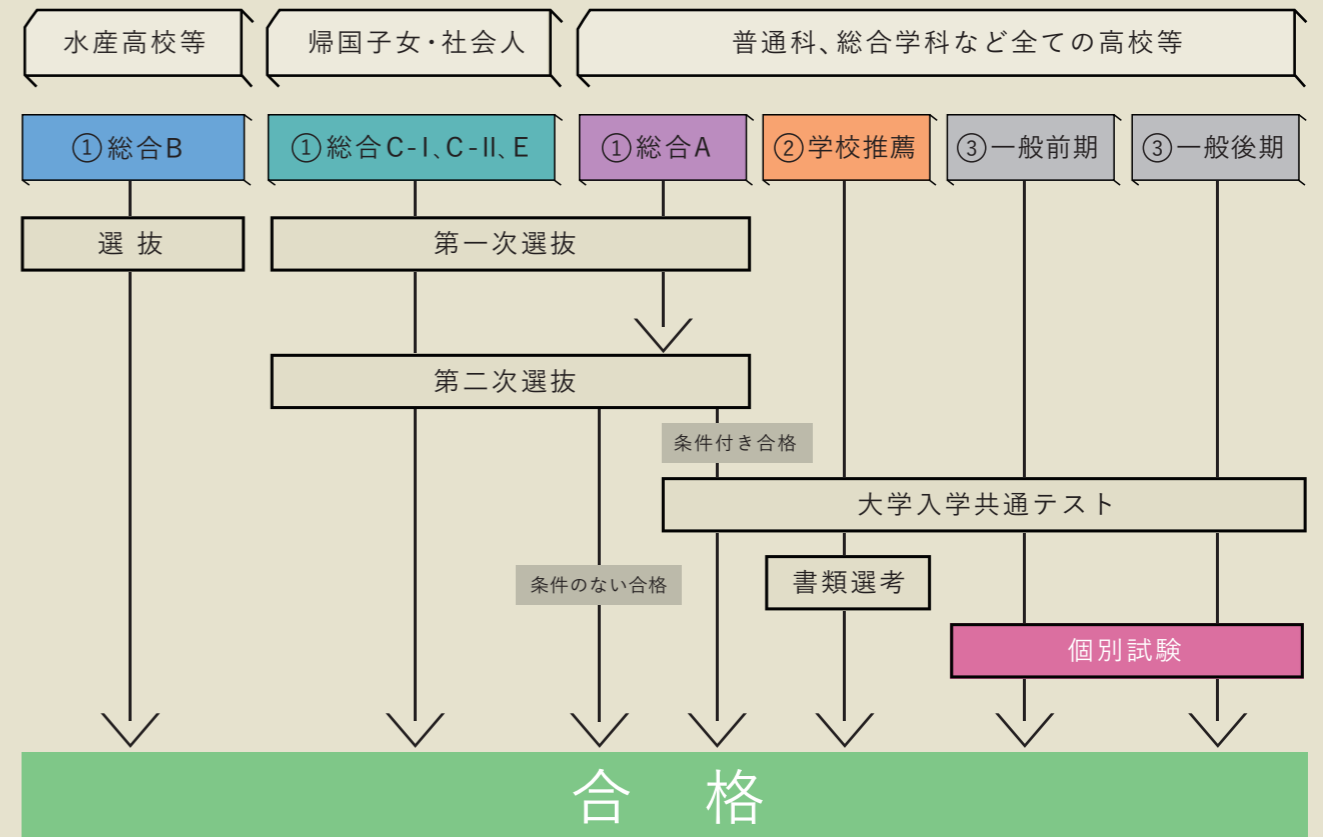
一般選抜(前期日程)では、高等学校等において、基礎学力とともに、論理的思考にもとづいて適切に文章を読解・作成する能力を身に付けている人を選抜するために、大学入学共通テスト(5教科7科目または6教科7科目)及び個別学力検査(数学または理科の1科目選択、及び小論文)の総合点で判定します。

一般選抜(後期日程)では、高等学校等において、基礎学力とともに、論理的思考にもとづいて適切に文章を読解・作成する能力を身に付けている人を選抜するために、大学入学共通テスト(3教科3科目)及び個別学力検査(小論文)の総合点で判定します。

総合型選抜、学校推薦型選抜及び私費外国人留学生特別入試では、学科の学問領域に対する関心、学ぶ意欲、学ぶために必要な学力等を重視して入学者を選抜します。

海洋政策文化学科の入学者選抜には、①総合型選抜、②学校推薦型選抜、③一般選抜の3種類があります。総合型選抜には、対象別にA、B、C-I、C-II、Eの5種類が用意されており、それぞれA:高校卒業(見込み)の全ての方、B:水産・海洋系高校卒業(見込み)の方、C-I:帰国子女の方、C-II:留学経験者の方、E:社会人の方が対象となっています。

※入学選抜の方法は変更となる可能性もありますので、最新の情報はホームページをご確認ください。



# 進路

学生の進路選択を支援する  
海洋政策文化学科独自の取り組み



## 1] 学科独自の就活セミナーの開催 (海洋政策文化学科・進路トーク)

マイナビ、日本経済新聞社、および学科の委員を講師として、本学キャリア支援センターの企画ではカバーしていない、学科独自の特徴等を考慮したセミナー(海洋政策文化学科・進路トーク)を開催しています。例)海洋政策文化学科の進路選択・インターンシップ(マイナビ)、水産食品業界のすべて(日本経済新聞社)、進路選択スケジュールとビジネスを捉える視点(マイナビ)など

## 2] 就職活動の直接的支援

インターンシップや求人情報を学科教員で共有し、適宜紹介しています。  
エントリーシートの添削、面接対策等、指導教員および進路担当教員が実施しています。

## 3] オープンキャンパスでのOB、OGによる説明会

卒業生がオープンキャンパスに来訪して就職後の情報を共有するとともに、本学科の卒業生の進路情報を来場者へ提供しています。

## 4] 国家公務員、地方公務員受験対策の強化

国家公務員採用総合職試験合格者率 (合格者数/学生総数) ベスト5大学 (2018 - 2020)

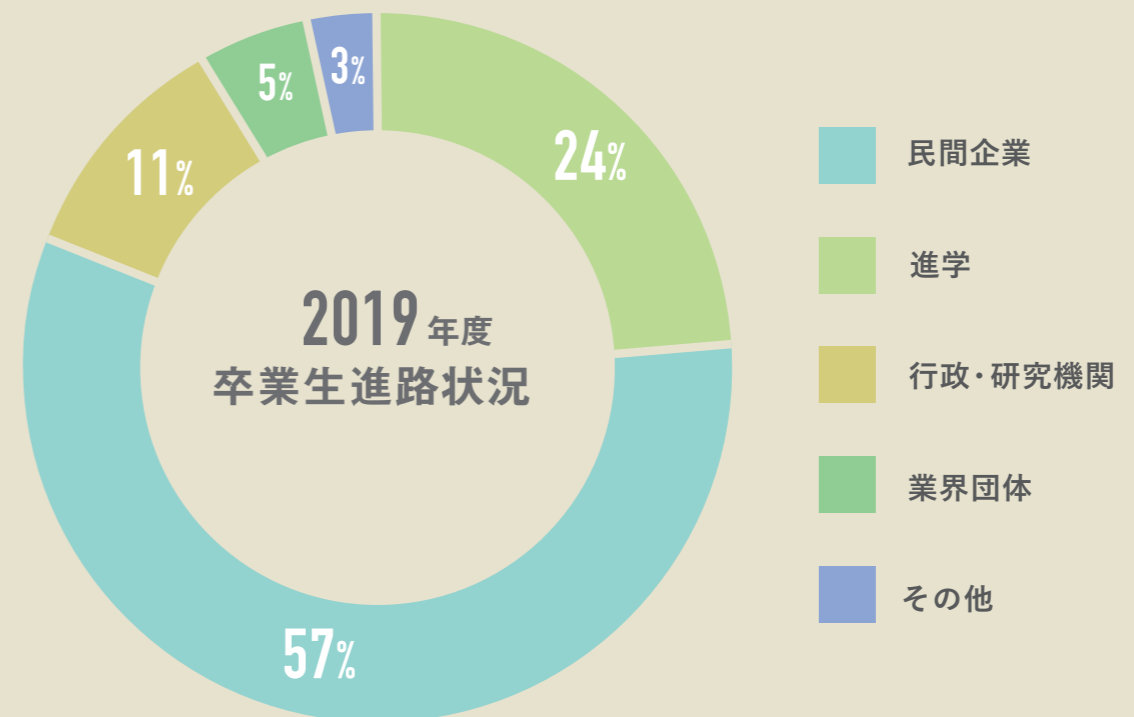
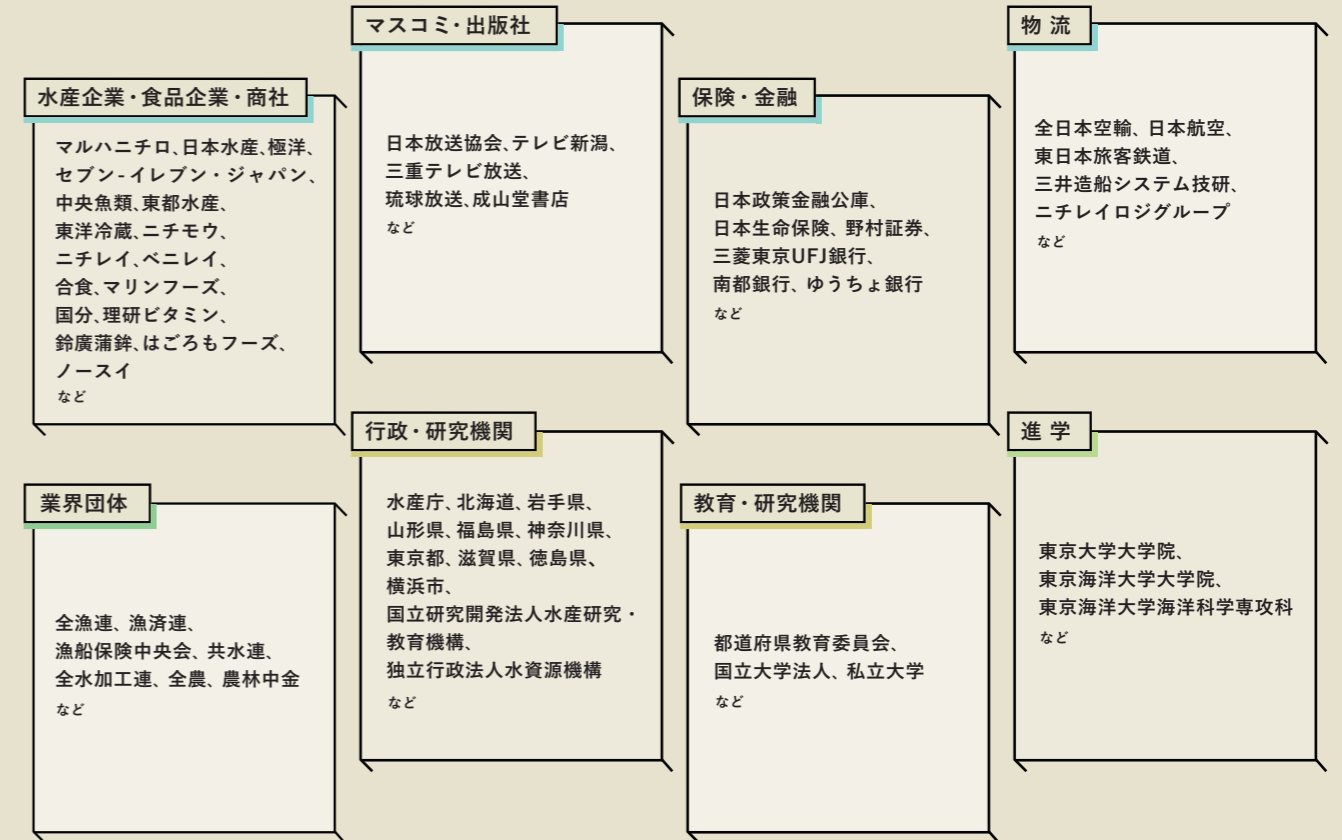
年度	設置	所在地	大学	大学程度試験合格者数	院卒者試験合格者数	合格者総数	学部生総数	院生総数	合格者率 (大学合格者数 / 学部生総数)	合格者率 (院卒合格者数 / 院生総数)	合格者率 (学部・院含む)
2018	国立	東京	東京大	194	135	329	12292	12000	1.58%	1.13%	1.35%
	国立	東京	東京海洋大	7	11	18	1740	685	0.40%	1.16%	0.74%
	国立	東京	京大	79	72	151	11292	9338	0.70%	0.77%	0.73%
	国立	京都	一橋大	26	13	39	3820	2100	0.68%	0.62%	0.66%
	国立	東京	東京農工大	14	16	30	3284	1921	0.43%	0.83%	0.58%
2019	国立	東京	東京大	164	143	307	12292	12000	1.33%	1.19%	1.26%
	国立	東京	一橋大	25	13	38	3820	2100	0.65%	0.62%	0.64%
	国立	京都	京大	66	60	126	11292	9338	0.58%	0.64%	0.61%
	国立	東京	東京海洋大	4	8	12	1740	685	0.23%	1.17%	0.49%
	国立	岩手	岩手大	17	2	19	4120	805	0.41%	0.25%	0.39%
2020	国立	東京	東京大	137	142	279	12292	12000	1.11%	1.18%	1.15%
	国立	京都	京大	84	47	131	11292	9338	0.74%	0.50%	0.63%
	国立	東京	東京海洋大	4	9	13	1740	685	0.23%	1.31%	0.54%
	国立	東京	一橋大	19	12	31	3820	2100	0.50%	0.57%	0.52%
	国立	岡山	岡山大	55	1	56	8792	3648	0.63%	0.03%	0.45%

合格者数は、人事院発表資料に基づく。学部生総数は、東京大学情報基盤センターによる学部定員数(2017年のデータ)を4倍したもの  
大学院生総数は、2020年に公開された各大学ホームページ上のデータ

海洋政策文化学科・進路トークの一環として、水産庁から本学OB・OGを招いて、仕事内容やキャリア形成、受験へのアドバイスなどに関する情報提供や座談会をおこなっています。2017年度からスタートし、述べ17人の本学OB・OGから協力を受けています。当初は、本学科のみでしたが、現在全学の学生向けに提供しています。例)「水産庁でのキャリア形成」+座談会(11月)、「水産庁の仕事」+座談会(1月)など

参加者の中から、水産庁(総合職)の合格者が増え、国家公務員試験総合職合格者率は3年連続でベスト5に入っています。

## これまでの卒業生の主な就職先・進学先



# 卒業生メッセージ Message from graduates.

及川光



**DATA**

卒業	2015年度海洋政策文化学科卒業 2017年度海洋管理政策学専攻修了
出身校	岩手県立盛岡第一高等学校
勤務先	岩手県庁(大船渡水産振興センター)

**MESSAGE**

私は2018年度より岩手県へ奉職し、現在は水産業普及業務に従事しています。岩手県では今なお東日本大震災からの復興に取り組んでいますが、ソフト面に目を向けると養殖生産量の減少や漁業経営の悪化等の問題を抱えている事例が多々あります。その中で私は、微力ながら水産業振興のため、日々漁業者や漁協職員と共に奮闘しているところです。海洋政策文化学科の特徴は豊富な実習です。全国各地の現場へ赴き、漁業者をはじめとする人々から直接話を伺い、海と人との関わりについて知見を深めることができます。私自身も実習がきっかけで現職を志した経緯があります。受験生の皆様も、この実習をぜひ楽しみにしてください。品川に籠っているだけの大学生活はもったいないです。

**DATA**

卒業	2017年度海洋政策文化学科卒業
出身校	作新学院高等学校
勤務先	ニチレイロジグループ

**MESSAGE**

学生時代にはできることを何でもやろうと、勉強にもサークル活動にも手を抜きませんでした。自分の興味のある分野を選んで学べるという喜びを実感し、フィールドワークや実習に積極的に参加して、北海道から沖縄まで飛び回りました。サークルでは軽音楽部に部長として所属し、そのサークルメンバーとは今でも交流があります。大学を卒業してからは低温物流事業国内NO.1のニチレイロジグループに勤めて食品の安定した物流を支えています。大学時代に培った情報収集・分析力、論理的な思考とバイタリティーは仕事をする中でも活かされています。みなさんも是非東京海洋大学に入学して、好きなことを好きなだけ学んでもらえればと思います。

初谷美歌



多田ひかり



**DATA**

卒業	2019年度海洋政策文化学科卒業
出身校	平塚江南高等学校
勤務先	水産庁

**MESSAGE**

海洋政策文化学科では講義やディスカッションを通して、海と人の関わり方を様々な視点から学ぶことができます。また、漁村などでの実習により、今実際に起こっていることを自身の問題として捉え、考えることができます。現在、水産庁で水産物の貿易に関する業務に携わっていますが、このような在学中の経験により培った現場感覚は、仕事をする上で重要な要素のひとつだと思います。本学科は学生数が多くないため、仲間との絆も強く、先生方の面倒見もとても良いです。みなさんも海好きな仲間たちと有意義な学生生活を送りませんか？

**MESSAGE**

水産商社で財務の仕事を担当しています。銀行と交渉し資金を調達することに始まり、国内外への支払や入金管理、資金繰りなど資金に関する全てを担当します。会社にとって資金は血液であり、滞らせることは許されない責任は重いですが、やりがいのある仕事です。私は海に憧れ海洋大に入学したので、在学中は学業、私生活問わず海中心の生活でした。マリンスポーツに熱中し、研究室ではサバコという船で漕ぎ渡る海峡横断のレースにも出場しました。海に特化した授業を受け、海にどっぷり浸かった6年間は私の生き方のベースになっています。海と生きることの素晴らしさを海洋大で学び、社会人となった今でも海のそばに住み、サーフィンしてから出勤する生活を送っています。

**DATA**

卒業	2011年度海洋政策文化学科卒業 2013年度海洋環境保全学専攻修了
出身校	山梨県立都留高等学校
勤務先	ニチモウ株式会社 財務部

葛木開



ニチモウ株式会社